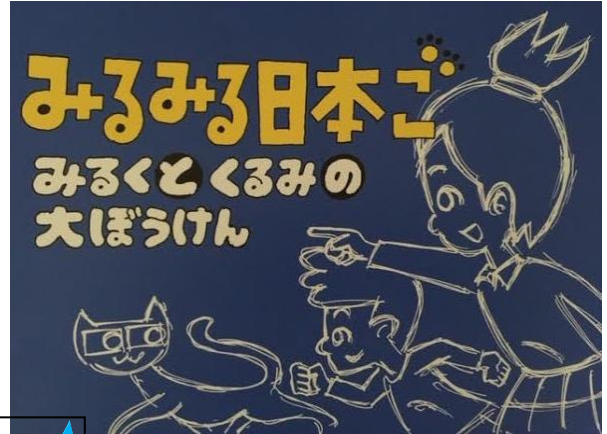


みるみる日本ご みるくとくるみの大ぼうけん

『365日のワークシート～手話・日本語そして障害認識』を発行してから4年…、全国聴覚障害教職員協議会は、第2弾として日本語ドリルをお届けします。さまざまなニーズをもつ子どもたちが、日本語を楽しく学習できるドリル、『みるみる日本ご～みるくとくるみの大ぼうけん～』です。A4版横本、青・黒の2色刷、わかりやすいイラストが満載のドリルです。



● はじめから文にしてかきましよう。

本をよんで

が

に

よんだら〇をつけましよう。

● はじめから文にしてかきましよう。

プレゼントを

が

に

よんだら〇をつけましよう。

えを見て文をかきましよう。

101

「あげる」のつかいかた

月

日

ろう・難聴児は、耳から得る情報が少なく自然な言語習得に困難をきたします。単語レベルでいうと、「かぼちゃ」が正しくききとれず、「かぼさ」と書いたり、「わらう」と「あらう」が同じようにきこえたりします。国語文法の自然な習得も難しく、「いすに座る」→「いすを座る」「字を書いた」→「字を書きた」「楽しかった」→「楽しいかった」と書いてしまう等、助詞使用や動詞・形容詞などの活用変化を身につけ

させるためには、適切な教材と指導者の高い専門性が求められます。

このドリルでは子どもたちの日本語学習に活用できるよう、広い視野に立って内容を精選しつつ編集を進めました。

助詞の運用

助詞運用のむずかしさは、ろう・難聴児や学習上の課題のある子どもたちにとって、日本語習得上の隘路となっています。本書では、助詞の働きを絵に描くことで視覚イメージ化を工夫しました。右のイラストのように、助詞「で」を擬人化させ、「ひとり」を囲んでいますので、活動人数は1人ということがわかります。これは「数量を表わす名詞について、行為者の数量」を表わすものです。助詞を擬人化したものを、私たちは「くっつきキャラ」と命名しました。

ドリルに取り組む子どもたちは、みるく・くるみ姉弟、そしてみるネ



コと共にたくさんのくっつきキャラたちに出会い、その用法を学びます。子どもたちは「人間の顔をしたくっつきキャラ」と出会うことで、助詞をより身近に、よりわかりやすく感じることができます。

数え方



本書の特長の1つとして「数え方」にも着目しました。「いっぼん・にほん・さんぼん…」と無意識に唱えたりする数え方ですが、「なぜ『さんぼん』は『さんほん』ではいけないのか？」と考えたことはあるでしょうか。ろう・難聴児には理解しづらい個所です。時刻の「分」の読み方も「さんぷん・よんぷん」と混乱しがちです。ドリルでは多くの数詞の例を並べ、生活の中で数え方に迷ったら、すぐ参照できるようにと配慮しています。また、干支や日本語表記の発音の特徴（助詞の「は」→「わ」と発音、「おかあさん」→「おかーさん」と発音）等、日本語の豆知識についても、コラムや漫画の形で掲載しています。

音の世界

本書では、ろう者当事者でなければ出てこない視点をふんだんに取り入れています。

「キラキラ星が光っているよ」とお母さんに言われたら（へえ、お星さまがキラキラ音を出しながら光っているんだ）と思いこむ子どももいます。「本当に音があるときの表現」「音がないときの表現」の双方が存在することを、当事者の視点でわかりやすく掲載しているところも本書の大きな特長です。子どもたちはもちろん、保護者にとっても、あらためて聴覚や音韻の世界を知るきっかけとなるでしょう。

『みるみる日本ご～みるくとくるみの大ぼうけん～』編集の原点は、私たちろう教員自身の、日本語学習につまずいたり工夫したりしていた少年期の体験です。

「みるく」「くるみ」の姉弟が、ナビゲーターの「みるネコ」に誘われ、日本語学習の世界へ足を踏み入れていきます・・・



「かみなりがゴロゴロとなる」
「かみなりがびかっとひかる」
「とうかきかたがあるね。じつは、これは、ほんとうに音があるのとなないがあるんだよ。」
○ほんとうに音がする
「かみなりがゴロゴロなる」
「犬はワンワンとなきます」
○ほんとうは音がない
「きらきらひかる」
「うさぎはびよんびよんとびます」
「じっと見つめます」

『みるみる日本ご～みるくとくるみの大ぼうけん～』の「みるみる」は、「よく見て学ぼう」という意味と、「みるみるうちに日本語の力がつく」との Double Meaning（2つの意味を兼ねる）です。

《問い合わせ・申し込み先》

全国聴覚障害教職員協議会 Mail:365work2011@gmail.com Fax:06-6629-6095